

今月の

数字

# 300億円超

(欧州で日本食材卸を展開する  
宝酒造グループの海外売上高)

松田 恭子

*Profile* まつだ・きょうこ ●津田塾大学国際関係学科卒業後、日本能率協会総合研究所で10年間公共系の地域計画コンサルタントとして勤務。その後、東京農業大学国際食糧情報学科助手を経て、現在、農業マーケティングアドバイザーとして農産物商品開発や販路開拓などをサポートする。(株式会社アソシエイト代表取締役)

11月7日、全国農業協同組合連合会と農林中央金庫は英国の食品卸 SFG ホールディングスの全株式を取得したと発表した。持ち株比率は全農が90%、農林中金が10%で、買収額は公表されていないものの、時事通信の報道では10億円程度と報じられている。SFG ホールディングスが持ち株会社となっている SCOTCH FROST OF GLASGOW LIMITED は1967年創業の生鮮・冷蔵・冷凍食品の輸入・卸売会社であり、英国国内のエスニック食品市場で長い歴史と優位性を持っている。アジアや欧州を中心に260以上のブランド、1,000以上の商品ラインを扱い、英国全土に高級レストランなど2,500社以上の顧客を持ち、年間売上高は約69億円である。全農は同社の経営権を取得することにより、最終需要者へのアクセスを保有する現地のサプライチェーンを獲得し、日本産農畜産物の海外輸出の拡大を目指す考えだ。

全農の動きに先んじて、海外でいち早く日本食材卸市場に進出したのが宝酒造だ。2010年にフランス・フーデックス社を買収して日本食材の輸出事業に参入し、2013年には日本食レストランに米や日本酒、みりんなどを販売する英国の食品卸会社タザキフーズを子会社化、2014年にはフランス・フーデックス社を通じてスペインのコミンポート・ディストリビューション社の全株式を取得し、現在では欧州最大規模の日本食材卸グループを形成している。欧米での日本食人気を追い風に日本食材の輸出を増やし、原材料高騰などで採算が悪化している国内の酒造事業を補おうという狙いは成功を収め、海外売上高は海外出資前の50億円から300億円

超に拡大し、宝酒造グループ全体2,254億円の13%を占めるに至っている。

食品専門卸の西本 Wismettac ホールディングスも2016年3月に連結子会社の西本貿易を通じて英国の日本食材輸入卸会社ハロー (Harro) フーズの全株式を取得した。Harro社は20年以上の実績を持つアジア食材・食品の輸入卸売会社であり、西本貿易は英国国内の販売網や営業力を活用して日本食輸出事業の展開を図る。

東南アジアでは、2011年に総合商社カメイ (宮城県仙台市) がシンガポールの食品商社 IMEI の全株式を取得した。IMEIは日本産食料品を輸入し、シンガポール国内のスーパーやレストランをはじめ、東南アジア地域一帯の小売店や数百の飲食店向けに日本食材を販売している。シンガポールへ食品を輸入している30~40の商社のなかでもIMEIは物流体制に対する評価が高く、年間200コンテナ超が稼働しているという。

海外輸出の機運が高まるなかで、農業者や中小商工事業者は商談会に積極的に参加するようになった。しかし、欧州の日本食材市場をよく知る日本の卸売企業によれば、「数回現地の商談会に参加しただけでは輸出が定着することは難しく、その先の輸入トレーダーに会わないと意味がない。輸入トレーダーも初めは日本食材を扱いながら中国での代替開発を進める場合もあり、現地に入り込んで何年も動ける体力のあるメーカーがやっと実績を出せるのが現状だ」という。海外の日本食レストラン約8.9万店に食材を輸出する共通インフラとして、海外のサプライチェーンに投資するという戦略的な取り組みは今後ますます重要になるだろう。